令和六年三月十四日(木) 回楽々俳句会(ちば)

吟行なし 活動センター 兼題「浅蜊」 投句三句 五句

選

1 新しきスポンジたわ L 水 む

22廃屋に残る表札: 2啓蟄 で総武快速 地下五

敷席幕間

 \mathcal{O}

百回の俳句誌届 るを \mathcal{O}

にぎやかにお椀 浅蜊舟なにはひ住まふ千 の中の浅 鯏汁 葉街 道

1 目ざめぎわすぐうすくなる \mathcal{O} 夢

1実は浅蜊カップ味噌汁デパ地倒壊の家屋そのまま浅蜊汁眼帯を外せる日なり春の朝 地下で

2

1 待ちて今朝枝先処々の桜咲く11十椀に磯の香りの浅蜊かな11早咲きの椿の面のみずみずし12ふつふつと食欲そそる浅蜊飯14潮噴射桶の浅蜊の底力

1

4 日 酒蒸しのは 日の中の眩しいばかりの花ミモザ酒蒸しの浅蜊意地張りひとつ閉づ北斎の浮かぶ浅蜊やハイボール春暁や草木も眠り音もなし

3 浅

2啓蟄や農機の 雁わたる棚 田 の月に あと追ふ鳥の 映る 群れ

2 春 酒 光る朝 浅蜊口閉じて抵抗すだ持て余す八十路かな

浅 蜊 飯 温

洋 武子 彦

ミチ子 宣子

育子

弘宣弘洋静恵武子子子子代美彦 子子子子代美彦

豊隆 の要らない

利太郎

参加

者

利太郎・粋歩・豊隆・信雄・武彦・久登成子・洋子・育子・ミチ子・弘子・宣子

洋子・育子・ミチ子・弘子・宣子・静代・今日子・恵美子

武彦

5 む 取 り

東風

0

2 今朝 1 自撮 りする辛 の乙女 カコ

1起きぬ けの厨 寒戻り な

ミチ子

成子

1遠い日の近 1 おまちどお 江 浅蜊パスタてんこも の国の浅蜊汁 V)

1三番瀬大粒 浅蜊二個拾 Š

今日子

久 豊 登 隆

今 日 雄 子

1手短に終はつてしまひ離1朝夕の濁声聞かぬ浅蜊売1一行の余す便箋春二番 売 り

1首すくむ戸口 の先の春 一番供

カウンター浅蜊汁締めと記憶の父囀やマックのバーガー膝の上一人静名前のように清楚な花 ツ ク

季語

明になって

1 る

豊隆

0 の説

のは要らな

浅蜊汁妣の笑顔と幸の膳 笑! 引く波にしたがい浅蜊取りいそぐ 酒の締め亡父は何時も浅蜊汁

笑顔で幸は分かる

浅蜊 汁妣の 笑顔 0 朝餉 カ

 \mathcal{O} 宵障子に映る影二 影だから映るは要らな

春の 弾けて春 < \mathcal{O} Ш 球磨 川 だから 川は要らな

つては 春の 球磨 川弾け

底に 東京湾

次回予定

時〜活動センター九階

ポートタワー近辺散策

四月十一日(木) 五月九日(木) 九時千葉公園集合